

# 天下一新能



noboka-tengai-shi-takigyou



## ● 演目紹介

### 能「橋弁慶 はしべんけい」 出演 片山九郎右衛門 延岡のこどもたち 他

比叡の荒法師、武蔵坊弁慶は京都五条の天神参詣が満願となる日、従者から最近、五条大橋に神業のような身の軽さで通行人を襲う不思議な少年がいるので、参詣を控えるように進言されますが逆に退治してやろうと、参詣を決意します。その少年こそがのちに義経となる牛若丸。鞍馬の天狗の庇護のもとと術を磨き上げ、五条大橋に現れては父義朝の恨みを晴らすため、平家の侍を襲っていました。牛若は女に変装し一瞬油断していた弁慶にすれ違いざまに長刀を蹴り上げます。激しく戦う二人でしたが、機敏でかるやかな牛若の動きに弁慶はついていけず、立ち尽くすのでした。少年は身分を明かし、それを知った弁慶は主従の契りを結ぶのでした。

### 能「葵上 あおいのうえ」 出演 片山九郎右衛門 他

光源氏の正妻となった左大臣の娘、葵上は最近モノノケに悩まされていました。モノノケの正体を知るべく院の臣下が照日の巫女に口寄せさせていると一人の女性が現れます。彼女がかつて“車争い”で葵上に辱めを受けた光源氏がかつて深い仲であった六条御息所の怨霊だと明かし、自らの抱える辛い思いを吐露しはじめます。そうするうちに次第に感情が昂ぶっていった彼女は、葵上を責め苛むと、彼女を冥府へ連れ去ろうと言い出します。臣下は急いで横川の小聖を招き、祈祷をはじめます。するとそこへ鬼女の姿となった御息所の怨霊が現れ、なおも葵上を書しようとし、しかし鬼女は小聖の法力の前に力尽き、成仏してゆくのでした。

### 狂言「仏師 ぶっし」 出演 茂山千五郎 他

田舎暮らしの男が自宅に御堂を建て、本尊にする仏像を求めて都にやってきます。仏師がどこにいるか、どういふ人かもわからないまま、大声を出しながら仏師を探して街中を歩き回ります。するとそこへ一人の男が近づき、自分が仏師であるというのです。田舎の男は大喜び、早速仏像を注文すると、その男は明日までに造り上げますといひます。翌日、その男のところを訪ねると、確かに完成した仏像が安置されています。すばらしい出来栄えに田舎の男は感激、つつい仏像に手を触れると、仏像は人肌みたいに温かいのだ。なんか怪しい。印相も悪いので、直してほしいと仏師を呼ぶのですが、さて、この顛末は……。

## ● 演者紹介



観世流能楽師シテ方  
片山九郎右衛門  
かたやま くりうえもん

観世流能楽師シテ方。1964年九世片山九郎右衛門=故幽雪(人間国宝)の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子(人間国宝)、姉は五世井上八千代(人間国宝)。幼少より父、長じて八世観世鏡之丞(人間国宝)に師事。のべおか天下一新能をはじめとして各地の能公演のプロデュースなどにも意欲的に取り組む。海外公演にも積極的に参加しており、のべおか天下一新能ドイツ公演を監修。1997年京都府文化賞奨励賞、2003年京都市芸術新人賞、2003年文化庁芸術祭新人賞、2007年日本伝統文化振興財団賞、2015年、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2008年から京都観世会会長、2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。



大蔵流狂言師  
茂山千五郎  
しげやま せんごろう

大蔵流狂言師狂言師。1972年十三世千五郎=五世千作の長男として生まれる。祖父は四世千作(人間国宝)で祖父、父らに師事。4歳の時に「以呂波」のシテにて初舞台。かつて「花形狂言会」「狂言小劇場」「TOPPA!」や若手能楽師による能楽グループ「心味の会」を主催し、狂言のみならず能楽のファン開拓にも力を注ぐ。現在は「茂山狂言会」、弟の茂との兄弟会「傳之会」、落語家桂よね吉との二人会「笑えない会」を主宰し幅広い年代層へ狂言の魅力伝える。また上海京劇院・巖慶谷や川劇変面王・姜鵬とのコラボ公演など、他ジャンルとの共演も精力的に行う。2016年に十四世茂山千五郎を襲名

## 内藤家旧蔵の能狂言面



宮崎県指定有形文化財となっている内藤家旧蔵の能狂言面は、江戸時代を通じて、領内の平和と繁栄を祈願するために毎年開催されていた神事能において使用されていたと考えられる能面です。桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍し、技量に優れ、「天下一」の称号を授与された面打師たちによって作られた能面三十点を含む七十二点の能狂言面は、その質と量はもとより、城下町であった延岡の歴史と文化を彷彿とさせる貴重な歴史資料と言えます。

## 新型コロナウイルス感染症対策

安全・安心して新能を鑑賞するために新型コロナウイルス感染防止策を講じます。

新型コロナウイルス感染症は、今後、再び感染爆発が起き、いつ地域医療の崩壊が発生するかわからない状況が続いています。そこで、お客様に安全、安心して公演を楽しんでいただくための感染対策を最優先して開催の準備を進めております。鑑賞するお客様の席の間隔を確保するため、従来の約半数となる650席の入場制限を行うとともに、入場の際の検温、手指消毒、マスク着用の徹底、全員の連絡先を明記した名簿等を作成いたします。大変なご不便、ご面倒をおかけすることになりますが、皆さんが安心して新能を楽しんでいただくためにご理解、ご協力をお願いいたします。なお、感染状況によっては、公演中止となることも想定されますことをご承知おきください。

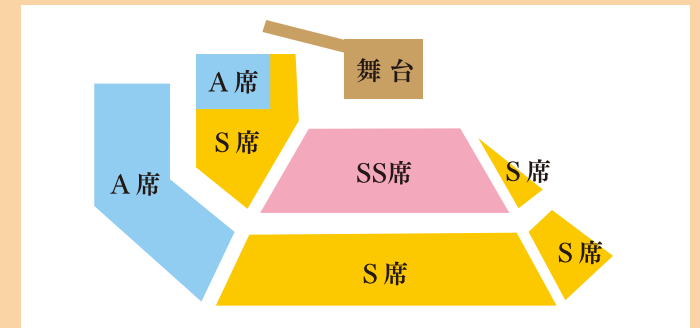
## 延岡のこどもたちも出演します。



2015年、春日龍神の舞台風景

地元のこどもたちが日本を代表する出演者と共演するのも大きな特徴です。この共演は今年で11回連続13回目となります。能「橋弁慶」では子方(牛若丸)や弁慶の従者役として出演するほか、仕舞を行うことになっています。延岡の能楽文化を未来に繋げようとしている「こども能楽プロジェクト」では、延岡の新能のほかにも福岡市の博多座公演にも子方として参加しています。

## 座席配置図 席位置は変更になる場合があります。



## 間隔を広くした、安心・安全の観客席

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、1,300席の座席が設置できる枚敷に半分席しか設けません。隣同士の間隔が今までの倍になります。そのため、ゆっくと、広い視点での鑑賞ができます。座席はSS席・S席(指定)・A席(自由)の3種類としますので、ご購入の際にはご注意ください。

## 入場料

- ◆SS席(指定席).....10,000円
- ◆S席(指定席).....8,000円
- ◆A席(自由席).....5,000円

## 1 住所 (〒 - )

---



---

## 2 氏名

---

## 3 電話番号

( ) -

---

## 4 ご希望のチケットの種類と枚数

席	枚

いただいた個人情報は本新能に関する以外には使用いたしません。

〈キリトリ線〉